

「第1回ワールドマインドスポーツゲームズ」参加5競技6団体**「WMSG チームジャパン」結成**

2008年10月、世界的に歴史と伝統をもつ「ブリッジ」、「チェス」、「ドラフツ(チェッカー)」、「囲碁」、「シャンチー(中国象棋)」の5つを競技種目とするマインドスポーツの祭典「第1回ワールドマインドスポーツゲームズ」がオリンピック直後の北京で開催されます。これまで「インテリリンピアード」「インテリリンピック(頭脳五輪)」などの仮称で国際マインドスポーツ協会(IMSA International Mind Sports Association 本部:フランス、会長:J.ダミアニ)が開催に向けてIOC(国際オリンピック委員会 本部:スイス、会長:J.ロゲ)やGAISF(General Association of International Sports Federations、本部:モナコ、会長:H.ヴェルブルゲン)他、関係諸機関と調整を進めてきたもので、オリンピック、パラリンピック同様、中国政府、北京市の全面支援を受けての開催となります。

「ワールドマインドスポーツゲームズ」には、世界100以上の国・地域から2000名を超えるトップ選手が集結、5競技36種目で金・銀・銅メダルをめざし、頭脳を駆使した熱戦を繰り広げます。各競技の最高得点者およびメダルを最も多く獲得した国・地域に対してJ.ロゲIOC会長を名誉組織委員長に、中国国家体育総局、北京市体育局を中心に構成されているWMSG組織委員会からトロフィーが授与されます。

日本ではまだ馴染みのうすいマインドスポーツという概念ですが、世界ではIOCにスポーツ競技団体として加盟しているブリッジ・チェスはもとより、囲碁、チェッカー、シャンチーも文化やゲームという枠を超えて、頭脳を使うスポーツ、年齢や肉体的条件に左右されないスポーツとしての地位が確立しています。アジア大会やアジア室内競技大会など、海外の国際スポーツ大会でのプレゼンスが増えています。

「ワールドマインドスポーツゲームズ」の開催決定を受けて、2008年1月、WMSG競技種目の国内団体である(社)日本コントラクトブリッジ連盟、日本チェス協会、日本チェッカー・ドラフツ協会、(財)日本棋院、WMSG 囲碁部門ペア戦の運営サポートを担当する(財)日本ペア碁協会、日本シャンチー協会が初めて一堂に会しました。以後、6団体は、WMSGを主催するIMSA役員でもある国際囲碁連盟事務局長重野由紀氏の協力の下、WMSGの準備状況や代表派遣についての最新情報の交換を主としたWMSG準備会を立ち上げ、協力して準備を進めて参りました。そしてこのたび、国内の多くの人々にマインドスポーツの魅力と意義を伝える大きなきっかけとなることをめざし、日本のスポーツ史上初めてとなるマインドスポーツのナショナルチーム「WMSG チームジャパン」を結成して北京に臨むことを全団体で決定いたしました。

これに伴い、WMSG準備会はWMSGチームジャパン事務局と改称、全団体協力して日本の知の力を代表して戦う「WMSG チームジャパン」への支援活動を行なって参ります。

以上

社団法人 日本コントラクトブリッジ連盟

会長 藤田 公郎

日本チェス協会

会長代行 渡井 美代子

日本チェッカー・ドラフツ協会

代表 小俣 光夫

財団法人 日本棋院

理事長 岡部 弘

財団法人 日本ペア碁協会

会長 松田 昌士

日本シャンチー協会

理事長 戸川 芳郎